



三瀨保育園 園だより

October 2021



クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~

たんぽぽ組

散歩に出かけ、身の回りの自然に興味をもつ。
体調に配慮してもらいながら、好きな遊びを楽しみ機嫌よく過ごす。

もも組

砂や落ち葉、虫などを見つけ、自然に興味を持つ。
保育者や友達と関わりながら、好きな遊びを繰り返し楽しむ。

ばら組

秋の自然に触れ、様々なものに興味関心を持つ。
身の回りのことが自分で出来るようになり、成功体験を増やして意欲に繋げる。

うめ組

体を動かして友達と遊ぶ楽しさを味わう。
身近な季節の変化を感じ、秋の自然に親しむ。

すみれ組

友達と力を合わせてミニスポーツ大会に取り組みやり遂げた達成感を味わう。
友達と相談しながら様々な素材を使い作ることを楽しむ。

ゆり組

友達と協力し、考えを出し合いながら遊びを進める楽しさをあじわう。
4月からの自分の成長を実感するとともに、健康について考えたり体調の変化に気付くことが出来る。

Amazon Prime 【旅する観光列車】 Vo.17

ほんの数秒ですが、子ども達が手を振っている姿が映っています。加入されている方は、覗いてみてください。

10月の行予定事

- 5 (火) スポーツ大会 ・お弁当の日
- 9 (土) マーチング発表会 (ゆり組)
- 11 (月) 園外保育ウィーク
- 15 (金) ↓ 避難訓練
- 18 (月) 地震訓練
- 19 (火) 内科検診 身体測定
- 22 (金) 歯科検診
- 26 (火) 内科検診 身体測定
- 28 (水) お誕生会

《5日スポーツ大会》

保護者を招いての運動会は中止。
保育活動の中で行います。

《9日 マーチング発表会》

ゆり組のご家族をお招きします。
他クラスは通常の土曜保育です。
*可能な場合家庭保育にご協力下さい。

《11日 平日》

例年スポーツの日ですが、
TOKYO2020の関係で平日です。

パラリンピックで世界の屈強なヒーローたちを目の当たりに、「すごいね！」と応援した9月。子どもたちの目にはどう映ったでしょうか？ヨーロッパでは障がい者スポーツの選手は、子ども達の英雄だそう。出来そうにない事をやってのけるスーパーマン。幼いころから障害を持つ人達とのコミュニケーションを通じ、自分との違いを認めながら受け入れる経験が世界の見方も少しずつ変わるのかもしれない。

以前、訪れたスウェーデンの保育園で見た景色。先生が子ども達数人と、筆と絵の具で絵を描いていた時、急に子ども達が描く方法を変え始めました。通訳曰く「先生は子ども達に、手を使わないならあなたは どうやって描く？」と尋ねたのだと。筆を口にくわえる子、足に持ち替える子、それぞれが自由に描き始めました。その園は、移民難民も在園し35か国の背景を持つ子ども達の環境で様々な多様性をカタチにしていました。

子どもたちは些細な事から自分と他人との違いを敏感に感じ取ります。時にはそれが異物感として排除されそうになる事もあるかもしれませんが、そんな時に、互いに話をしたり一緒に過ごす内に理解して「違いは面白い」「違うからいいね！」と思える文化が育つように、園内でも空気を作っていきたいと感じています。



そして、そんな中、10月5日のスポーツ大会に向けても準備中！

クラス毎の練習では、お互いにライバルながらも応援しあう姿が印象的です。きっと思う存分体を動かし、子ども達が楽しめる一日になるだろうと思います。今年は日頃から異年齢での関わりも増えているので、子ども同士の熱心な応援が期待できそうです。

まだもう少し、コロナとの日々が続きそうですが、子ども達は間違いなく成長しています。日常の中だからこそ、のびのびと日々を豊かに過ごしている姿を見ていると、子ども達のあふれるポジティブな言葉や思考に確実にそう感じます。 國友 裕子

子どもの世界をのぞく

～子どもの興味は予測不可な時もある～

子どもの興味関心というものは、大人が思いもつかない方向に急カーブすることが沢山あります。

わざわざ子どもの為に動物園に行って「ほら、見てごらん！ そうさんって大きいね！」と言ったところで、子どもの興味関心が足元の小さなアリに注がれているようなことは、きっと子育てしている中で日常茶飯事かもしれません。

保育園の中で子ども達と過ごしていても、そんな出来事が沢山あります。それは小さな子達のクラスだけではなく、大きな子達のクラスでもあるものです。

いま、すみれ組で実践しているコンポスト。

野菜くずを混ぜて、微生物や小さな虫が大活躍して肥料にしてくれるあれです。

最初こそ、子どもたちは

「うえ～。虫気持ち悪い…。」「白いカビ？ あるね。」という反応だったのですが、日々野菜くずを入れるたびに、子ども達の興味は肥料が出来ることよりも虫の成長になっていったのです。

「この虫、何が一番好きな食べ物なのかな」

「何だろう」

「ニンジンかもしれん」

そんな時、すみれ組の担任達は子ども達と一緒に

「なんだろうね」

「ニンジンかもしれんの？」

「じゃ、ニンジンあげてみようか」

と受け止めたそうで。



丸ごと1本のニンジンをコンポストに混ぜたそうです。

子どもたちは、コンポストのなかの虫に興味がありますから、もう、もはや肥料になるという事はいったん置いておいて一直線に虫です。

コンポストの中を器用にホジホジしながら、うようようごめく小さな白い虫を上手に探し出して観察するのだそう。

「大きくなったらなんになるとやか？」

「こっちの虫は体にポツポツって模様があるね。」

「こっちは真っ白よ。」



子ども達が前のめりで観察する姿に、担任チームは圧倒され虫への情熱を感じ、どうかそこから展開できないか試行錯誤中です。



たとえこの虫がガになったとしても、そのまま土の中に居続ける虫だったという結論でも、大事なことは子ども達が自発的に興味や疑問を持ったこと。そして、それを理解するまで自分たちなりに調べたり考えたりすること。

時に予想がつかない方向への展開に、大人たちも既成概念を取っ払い頭を柔軟にしながらやっています。

その既成概念を取っ払うのに苦労する我々大人たちは時に子ども達の自由な発想に羨望のまなざしを抱きながら。

